

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第19集

（長野県道 1 号線～508 号線）

NO.127 初日の出を見ることが出来ました（2025 年元旦）

NO.128 別所温泉と信州の鎌倉（前編）

（長野県道 171 号走破）（長野県道 177 号走破）

NO.129 別所温泉と信州の鎌倉（後編）

（長野県道 82 号走破）

NO.130 諏訪大社上社の御柱道と原村に向かう登り3本の県道

（長野県道 90 号走破）（長野県道 188 号走破）（長野県道 196・197 号線走破）（長野県道 425 号線走破）

NO.131 伊那部宿・宮田宿の三州街道（伊那街道）

（長野県道 146 号走破）（長野県道 221 号線走破）

NO.132 狭い山道がつづく岩本里穂刈線

（長野県道 391 号）

NO.133 県道 500 号線笠倉壁田橋完成で開通

（長野県道 355 号走破）（長野県道 434 号走破）（長野県道 500 号走破）

2025.1.1 少し山の上が赤くなってきたので、自宅から雪道を 100 歩登り、八ヶ岳を一望できる場所に着きました。この位置から、数年前に 1 年を通して日の出を観測した事があり、場所は大体分かっていたので、待つ事 25 分(赤くなってからこんなにかかるとは誤算)、7 時 3 分ようやく元旦の御来光を浴びる事が出来ました。寒かったけれど、松本盆地に元旦に光がどのように届くのか見てみました。予想したのとは違い南から始まりました。その後、西の山際に広がり、徐々に松本市街に向かって進んで行きました。盆地の半分程光が届いた所(7 時 24 分)で家に帰りました。

ここからは、東に、八ヶ岳・蓼科山・美ヶ原の百名山が見えた。北に、雨飾山・妙高山・火打山・高妻山の百名山が見える。

日本百名山・二百名山・三百名山があり、少し調べて見ました。



百名山は、文筆家で登山家だった深田久弥が実際に登頂した日本各地の山のうち、自ら定めた基準で名峰 100 座を選び主題とした山岳随筆集および、そこで紹介された山々である。雑誌『山と高原』

に 1959 年(昭和 34 年)から 4 年連載した随筆などを基に書籍化し、初版は 1964 年(昭和 39 年)7 月に新潮社で刊行された。深田久弥の選定基準は、日本の多くの山を踏破した本人の経験から、「品格・歴史・個性」を兼ね備え、かつ原則として標高 1500m 以上の山という基準を設け、山の品格・山の歴史・個性のある山の 3 つ基準で選定した。

・**山の品格**：人には人格があるように、山には「山格」のようなものがあるとし、誰が見ても立派な山だと感嘆する山であることを、第一の基準とした。

・**山の歴史**：昔から人間との関わりが深く、崇拜され山頂に祠が祀られている山であるというような山の歴史を尊重し、第二の基準とした。

・個性のある山：芸術作品と同様に、山容・現象・伝統など他には無いような顕著な個性をもっていることを、第三の基準とした。

日本三百名山は、日本山岳会の『山日記』編集メンバーによって1978年に選定された。ここで選定されたのは200の山で、それに深田久弥の百名山を加えて300としている。日本二百名山は、深田久弥のファン組織「深田クラブ」によって、同クラブ創立10周年を記念して1984年（昭和59年）に選定された。三百名山のうち深田選でない二百座から百を選び深田の百名山と合わせて二百とする。

日本百名山を長野県内および周辺を見ると、まずはエリア毎に山名を分けた所を発見した。これから標高別にし、長野県境の数と長野県内の数を割り出して見た。結果、長野県境23山、長野県内6山、長野県境周辺で他県山は、15山であった。

エリア	番号	数	標高 <2000	2000～ <2500	2500～ <3000	3000～	k:長野県境 n:長野県内
北海道	001～009	9	5	4			
東北	010～023	14	9	5			
北関東・尾瀬・日光	024～032	9	3	5	1		
上信越	033～044	12	3	8	1		k:5(新3,群2)
秩父・多摩・南関東	045～053	9	3	4	1	1	k:2(埼・山1,山1)
北アルプス	054～068	15	0	1	10	4	k:7(富3,岐4)n:1
美ヶ原・八ヶ岳・中央アルプス	069～076	8	1	2	4	1	k:3(山1,岐2)n:5
南アルプス	077～086	10	0	0	3	7	k:6(山2,静4)
北陸・近畿・中国・四国	087～094	8	7	0	1		
九州	095～100	4	6				

上信越：苗場山・雨飾山・高妻山・^{あずまやさん}四阿山・浅間山、南関東：甲武信岳・金峰山、北アルプス：白馬岳・五竜岳・鹿島槍ヶ岳・槍ヶ岳・穂高岳・常念岳・焼岳・乗鞍岳、中央アルプス他：美ヶ原・霧ヶ峰・蓼科山・八ヶ岳・御嶽山・木曾駒ヶ岳・空木山・恵那山、南アルプス：甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳・塩見岳・赤石岳・聖岳・^{てかりだけ}光岳。

長野県境周辺で他県の山は、新潟県：妙高山・火打山、群馬県：草津白根、山梨県：^{みずがき}瑞牆山・鳳凰山・北岳、静岡県山梨県境：間ノ岳、富山県：剣岳・立山・薬師岳・黒部五郎岳・水晶岳・鷲羽岳、岐阜県：笠ヶ岳、静岡県：悪沢岳の15山があった。

百名山で山頂まで県道路線があるのは、槍ヶ岳『第3集 NO.15、279号（槍ヶ岳上高地線）・326号（槍ヶ岳線）・327号（槍ヶ岳矢村線）』と赤石岳『第14集 NO.94、253号（赤石岳公園線）』と白馬岳『第17集 NO.117、322号（白馬岳線）・325号（白馬岳大町線）（未掲載）』と美ヶ原『第15集 NO.105、283号（美ヶ原公園線）・NO.62号（美ヶ原沖線）（未掲載）』、又山頂に向かって県道路線があるのは乗鞍岳『第15集 NO.100、82号（乗鞍岳線）・5号（乗鞍公園線）』と木曾駒ヶ岳『第8集 NO.55、75号（駒ヶ根駒ヶ岳公園線）』となっている。

写真が取れてる百名山の山は、雨飾山（第1集 NO.7・第18集 NO.124）・妙高山（新潟）（第18集 NO.124）・火打山（新潟）（第18集 NO.124）・高妻山（第18集 NO.124）・四阿山（第17集 NO.116）・浅間山（第4集 NO.26）・白馬岳（第17集 NO.117）・鹿島槍ヶ岳（第9集 NO.60）・立山（富山）（第4集 NO.23）・槍ヶ岳（第3集 NO.15）・穂高岳（第5集 NO.32）・乗鞍岳（第11集 NO.71）・蓼科山・八ヶ岳（第2集 NO.9）・御嶽山（第4集 NO.24）・木曾駒ヶ岳（第8集 NO.55）・甲斐駒ヶ岳（第7集 NO.46）・仙丈ヶ岳（第18集 NO.123、第7集 NO.46）であるが、まともな山の写真は少ない。長野県の百名山として15/29＝約50%にあたるが、苗場山・甲武信岳・金峰山・空木山・塩見岳・赤石岳・聖岳・^{てかりだけ}光岳の8つはまだ山の形が頭に入っていない状態なので、いつとれるかわかりません。ちなみに、私が百名山に登ったのは、美ヶ原と穂高岳と槍ヶ岳と霧ヶ峰（リフトで上がった）の4山しかありません。

≪長野県山形村≫(やまがたむら) 2025.1.7

別所温泉と信州の鎌倉(前編)

澤田 繁 著

(長野県道 117 号走破)(長野県道 177 号走破)

2025.1.7 麻績インターから修那羅峠を越え、青木村から別所温泉に行きました。上田盆地の千曲川左岸の河岸段丘を塩田平といい「信州の鎌倉」(鎌倉時代に立てられた建造物や史跡が点在しているから)の異名をもつ所です。松本から保福寺峠を通り、青木村から上田に向かう律令時代からの東山道(保福寺道)が国道 143 号線に沿っており、東山道浦野駅の駅寺と考えられた「大法寺」には、国宝三重の塔「見返りの塔」があり、国道からちらっと見える。『2021.2.2「見返りの塔」に久しぶりに訪れ写真を撮った。すぐそばに、以前にはなかった「青木村美術館」があり、塔の天井の復元壁画など見学し、喫茶で休憩した。大法寺三重塔は、正慶二年(1333 年)に建てられました。和様の建築様式が正確に守られ、奈良や京都の建築物に遜色しない美しさを持つこと、周囲の風光との調和が美しさをより際立たせていることなどから、国宝に指定されております。この三重塔はその美しさから、近くを通る東山道の旅人がふり振り返りふり振り返り塔を眺めたことから「見返りの塔」の名でも親しま



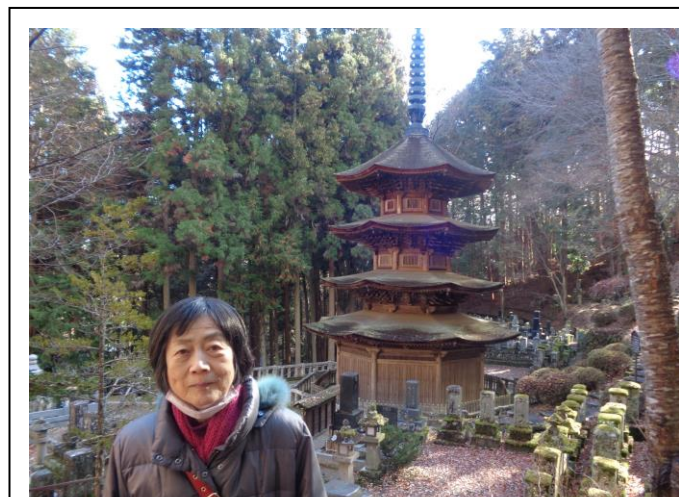
れ、日本一美しい塔とされております。』

2025.1.7 青木村から旧清里村(昭和 32 年まで)にはいり、浦野・岡・仁古田地区と通り、仁古田交差点を右折し県道 171 号線(塩田仁古田線)に入った。仁古田地区を行くと、山道にはいり、曲がりとすれ違いが

難しくなった。山を越え、旧中塩田村（昭和 31 年まで存在・舞田・中野・本郷・五加・保野・小島・八木沢）の舞田地区に入り、少し道が広くなり、舞田交差点で県道 177 号線と交わった。『2021.8.17 コメリ上田店で珪砂を買った帰りに、舞田交差点から下之郷交差点まで走った（県道 171 号線走破）。この県道、塩田平の真中を通り、別所線に沿って走っていった。塩田平は、中学校で「ため池」（右図）の多い所として習ったが、実際非常に多く感じられた。』

『2021.10.19 軽井沢方面への帰り、東部湯ノ丸 IC から丸子を通り県道 65 号線に出て、長野大学近くを通り、下小島交差点を左折して、県道 177 号線（鹿教湯別所上田線）に入りました。旧中塩田村の小島地区・保野地区を通り、舞田地区で県道 171 号線をつ切り八木沢地区を通り、昭和 31 年まで別所村（昭和 31 年～昭和 45 年には塩田町・昭和 45 年に上田市になる）に入った。別所温泉駅そばの交差点を左折して進むと、温泉旅館街に入り、正面に大湯（外湯・共同浴場・葵の湯）が見え、ここを直角に右折し、クランクの道を緩やかに登る道であった。北向観音の横を通り、クランクを抜けると本格的な山道に入った。北向観音から、高さで 150m 程登った標高 750m の所に集落（野倉）があり、そこを過ぎると県道 177 号線は、標高 800m～900m の山腹をくねくねと県道 12 号線（第 9 集 NO.61）と交わるまで走った。沿道には止め山を示すテープが多く張られていた。鹿教湯温泉までは県道 12 号線と重複しており、この日は、鹿教湯温泉まで行き、三才山トンネルを通り帰宅した（県道 177 号線走破）。』

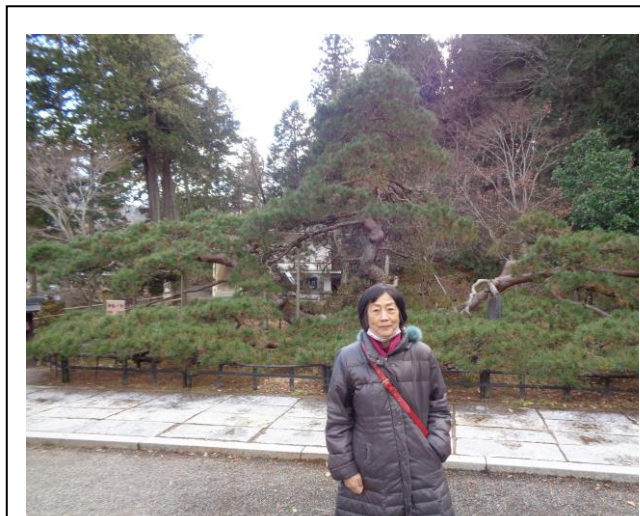
2025.1.7 舞田交差点を右折して、県道 177 号線を別所温泉方面に走り、別所温泉駅に車を止めて古い列車を見に行きました。写真は「モハ 5250（丸窓電車）」で説明文は《当社では最初の新造車両として、昭和 2 年日本車両会社で 3 両製造されました。ドアの戸袋の窓が縦長楕円形であり、その形から「丸窓電車」の愛称で親しまれ、別所線の主力電車として、塩田平を走りつづけてきましたが、昭和 61 年 10 月に 5000 形導入と共に引退しました。現在はその姿をここに保存し往時を偲んでいただいています。》です。駅のそばに、県道 177 号線と県道 82 号線に分かれ道があり、県道 82 号線を進むとすぐに温泉街に入り、82 号線の終点近くまで行くと、**安楽寺**の行き先表示があり、それに従って右折し、狭い道を行き、黒門をくぐり安楽寺の駐車場に着きました。まずは、階段をのぼらず坂道から入り本堂にお





詣りました。本堂横から拝観料を払い坂道を登って「国宝八角三重塔」を見ました。数十年前に訪れた時とあまり変わっていません。三重塔の安楽寺ホームページの説明文は《昭和 27 年、国宝に指定された。塔は本堂の裏を登った山腹にあり松の縁に映えて、重厚な佇まいがどっしりと空間を支えている。建立年代は平成 16 年の年代調査によって三重塔用材の伐採年代は正應 2 年（1289）ということが判明し、少なくとも

1290 年代（鎌倉時代末期）には建立されたことが明らかになり、わが国最古の禅宗様建築であることが証明された。建築様式は禅宗様（鎌倉時代に宋から禅宗に伴って伝来した様式で唐様ともいう）八角三重塔で、初重に裳階（もこし：ひさし又は霧よけの類）をつけた珍しい形式であるうえに細部も又、禅宗様の形式からなり類例が少ない。内部は 8 本の母屋柱によって、内陣と外陣とに分けられ、周囲を外陣とし、化粧屋根裏をあらわし、八角形の内陣は高床を張り、天井は中央に天蓋をつり、その周囲に少天井を張ったあまり見られぬ形式である。内陣には建立当時の八角の仏壇をおくが、この形式も又珍しいものである。塔は印度のスツパを起源とし、元来仏舎利（釈迦の遺骨）を奉安したものだが、中世以降は特定の人物又は戦死者の供養に建てられた例が多い。資料が乏しく造塔の縁起は詳かでないが、この塔もおそらくそのような目的で建てられたものと思われる。内外共に巧みな意匠と、類例の少ない形式より出来ているこの塔は、西大寺



（奈良）法勝寺（京都）などの八角塔が失われた今日、わが国に残された唯一の八角塔であり、且つは、禅宗寺院に残る塔としても極めて貴重な遺構である。》であり、次に、昔の記憶にある樹齢 350 年以上の「御舟の松」が本堂の前にある「常楽寺」に行き、本道横から坂を登り「石造多宝塔」をお詣りに行きました。多宝塔は、北向観世音様が出現した所で、高さ 2m85cm の安山岩で出来ており国の重要文化財に指定されています。多宝塔というのは、上下二層の屋根がある塔です。下の屋根の上に饅頭形という丸いふくらみがあって、その上にまるい塔身があり、二つの屋根がその上にのっています。なお、その上に相輪という柱のようなものが立っています。

前回（2021.2.2）の時は、北向観音と参道仲見世を通り、足湯をして、安楽寺と常楽寺には寄らなかったもので、今回はここと「前山寺」を目的に来ました。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.1.7

別所温泉と信州の鎌倉(後編)

澤田 繁 著

(長野県道 82 号走破)

『前回(2021.2.2)は、北向観音の節分の前に、様子を見に来た。北向観音の説明の抜粋として《北向観音堂は、平安時代初期の天長2年(825年)、比叡山延暦寺座主の慈覚大師円仁により開創された霊場です。本堂が北に向いているのは、わが国でもほとんど例がありません。北向観音様は北向に建立され千手観音様を御本尊として現世利益を願い、また善光寺様は南向きに建立され阿弥陀様を御本尊として未来往生を願います。現在と未来の片方だけですと片詣りと言われおり、向き合ってる両方をお詣りしたほうが良いと言われるようになりました。』とある。良くテレビで節分の様子が放送されていたので、昔からよく知ってはいたが、お詣りしたのは初めての気がする。節分の準備が進んでいるのを見ながらお詣りをして、参道仲見世通りを散策し、いろいろ買って楽しみました。駐車場に戻るところで、足湯を発見し、足を温めました。』



2025.1.7 常楽寺から県道 82 号線(別所丸子線)に戻り、別所駅を過ぎ、県道 177 号線と 300m 程重複して走ると、別所温泉交差点の三差路に着き、右折すると県道 82 号線単独の道になった。交差点からすぐに昭和 31 年まで西塩田村(前山・手塚・山田・野倉・新町・十人)の山田地区に入った。旧西塩田村もため池地帯であり、耕作地が多い。手塚地区から前山地区に入り、「前山寺」に行く前に「中禅寺」に寄りました。「中禅寺」の駐車場に車を止めて、本堂にお詣りし、薬師堂を見に行きました。《薬師堂は、藤原時代の「阿弥陀堂形式」という造りで、鎌倉時代の初期に建立されたものと推定されます。堂内中央に四天柱があり、その中央に薬師如来が安置されています。外観



は東西南北どちらから見ても、柱が 4 本あり、真上から見ると正方形の形をしています。屋根は寄棟の「宝形造り」で茅葺となっています。これは世界遺産、岩手県の中尊寺金色堂と同じ形です。また、中部日本で最も古いお堂といわれています。》薬師堂の正面の門に、木造金剛力士像を見て「前山寺」に向かいました。

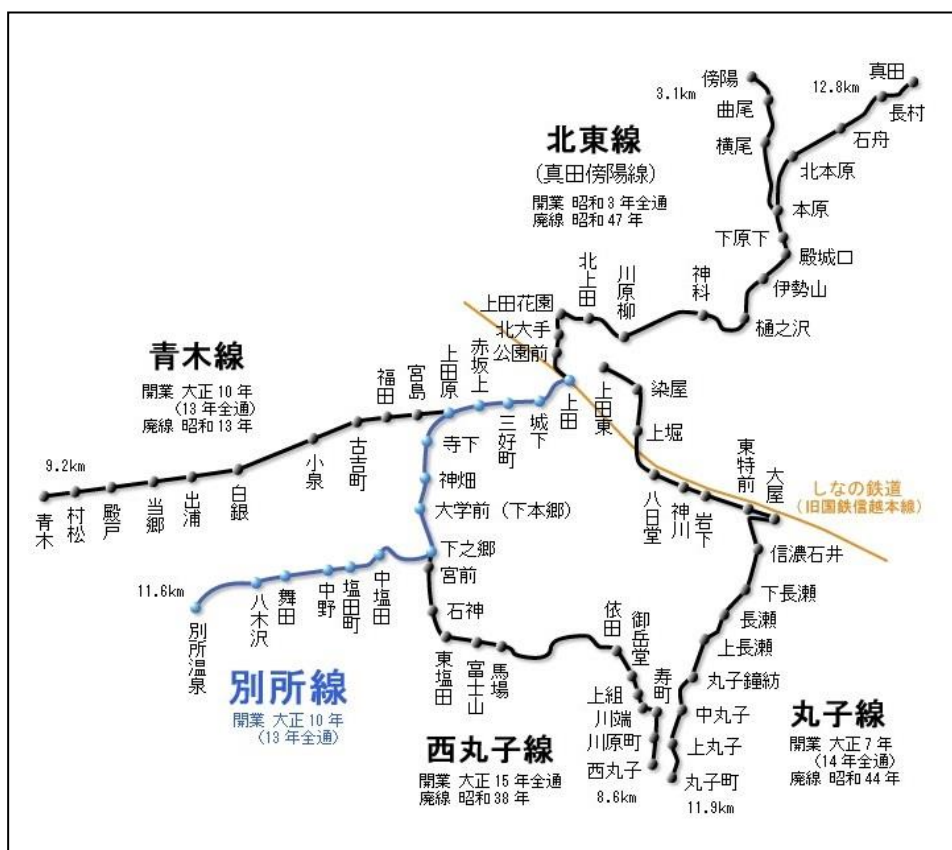
「前山寺」に着き、御朱印をもらおうと思いましたが、不在のメモがあったので、最初に三重の塔を見に行きました。

《**三重塔**、室町時代に建立されたとし、塔は三間三重で、高さ 19.5 メートル、屋根は柿葺きである。「**未完成の完成の塔**」と言われ、二、三重の柱に長押仕口がありながら、窓も扉もなく、また廻廊も勾欄もない。昭和 25 年 国の重要文化財指定》写真を撮り、本堂でお詣りし、前来た時もあった休憩所は、やっていない。案内によれば、くるみおはぎが食べれる《昭和 30 年代、住職夫人手作りの「くるみおはぎ」をお檀家さんに御接待していたのが始まりで、昭和 50 年頃より参拝の皆さまにもお召し上がりいただけるようになりました。境内で採れる鬼胡桃のたれに塩田産の餅米で作ったおはぎ、向付（梅のしそ巻き）、お茶。僅かな品数ですが、手作りの味を守っております。塩田平を眺めながらご賞味ください。》だそうです。



前山寺を後にして、県道 82 号線を東に進むと、旧西塩田村から旧東塩田村（古安曾・富士山・下之郷）の古安曾地区に入り、さらに進むと、県道 65 号線と三差路で交った。今回は、三差路を左折し、坂城に「おしぼりうどん」を食べに行きましたが、時間も昼食時を大きく外れていたの、食べる事が出来ませんでしたので、ハンバーグ等を買、千曲市の娘に家により帰りました。

前回（2021.2.2）の時は、古安曾の県道 65 号線との交点を右折し、県道 82 号線は県道 65 号線と 100m を重複しており、100m 先を左折し県道 82 号線単独の道を終点に向け走った。左折しすぐに古安曾地区から富士山地区に入り、徐々に山を登って行く、登りきった所から旧丸子町にはいり、今度は下って行く、南原交差点を左折し、北原交差点を右折し、依田川橋交差点を左折し、国道 152 号線との交点でもある中丸子寿町交差点で県道 82 号線は終点となった（県道 82 号線走破）。この県道近くに線路跡見たいのがあったので、調べると、西丸子線が丸子に向かって走っていたようだ。大正 14 年開通し、昭和 38 年に廃線になった路線のようだ。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.1.14

諏訪大社上社御柱道と原村に向かう登り3本の県道 澤田 繁 著

(長野県道 90 号走破)(長野県道 188 号線走破)(長野県道 196・197 号線走破)(長野県道 425 号線走破)

2025.1.14 高速で小淵沢インターまで行き、道の駅こぶちさわで休憩と野菜(ネギ・大根・さつまいも等)を買い付近を散策し、県道 11 号線で国道 20 号に出ました。国道 20 号を諏訪方面に進み、富士見町神戸八幡の信号を右折し、かつての県道 425 号線であった道を進み、すすらの里駅横を通り、段丘を登り。県道 90 号線に出ました。県道 90 号線(諏訪南インター線)は、神戸八幡交差点の一つ先の諏訪南インター入口交差



点が始点であるとともに整備された県道 425 号線の始点ともなっている。諏訪南インターに乗るため、2021.3.23 をはじめ何度か通っている県道である(県道 90 号線走破)。旧県道 425 号線から県道 90 号線に出て、すぐに諏訪南インター入口の前を通過し、県道 90 号と県道 425 号線の重複区間は終わり、県道 425 号線(弘沢富士見線)単独の道になり、富士見町から原村に入り、御射山交差点を左折し、標高 1000m 前後の標高差が少ない耕作地が多い所を走り、室内地区の民家が多い所に入り、上室内交差点で県道 196 号線と交わり県道 425 号線は終点となった(県道 425 号線走破)。

県道 196 号線に入り、原村役場のある弘沢交差点に向かいました。弘沢交差点の手前に良く寄る A コープ原村店で休憩しました。A コープを出て、八ッ手交差点で県道 196 号線は、県道 17 号線と一緒にになり、柳沢交差点まで重複区間であり、柳沢交差点まで走った。

柳沢交差点を右折すると、「御柱道」の先端に行く事が出来るので、前に行った事があるが、又行く事にしました。諏訪大社上社の御柱は、6 年に一度、寅年と申年に行われる式年祭で、社殿の四方に建てられている柱の入れ替えをするもので、その柱は、上社は八ヶ岳の山麓から原村・茅野市をひいて運んでくる祭りである。柳沢交差点の標高は 1010m でここから約 5km を真つすぐ緩



やかに登り、標高 1265m の「御柱綱置場」に着いた。この先には、農業大学校があり「昔からの農産物販売所」が今もあった。少し行った所でUターンをしました。「御柱」の柱の調達はこの先八ヶ岳に向かって直線で 5km 程のところに「諏訪大社関連社」があり、その所有の「御小屋山」から 8 本伐採して、「御柱綱置場」に、「山出し」までの間保管する。昔はここから全柱曳いて行ったが、現在は「本宮一之御柱」を先頭

(御柱出発の地)に 300m 間隔で並べて曳いていくようだ。今日は、「山出し」の道に沿って下って行くことにした。柳沢交差点を直進し、県道 196 号線を下って行くと民家が多くなり、90 度の曲がりの所に来た。ここは難所のように「穴山の大曲」と名前がついている。御柱道は、「穴山の大曲」から 2km 行ったところで、県道 196 号線と別れ平坦な所から峰(片側が川による浸食がやや深い)に入る。峰の道を更に緩やかに下って行くと、丘の上に着いた。ここが「上社の木落とし」をするところになり、標高は 800m となる所まで下ってきたことになる。これまでは緩やかな下りであったが、ここが唯一急な下りとなる。車を止めて写真を撮った。「上社の木落とし」は、氏子を「めどてこ」(本体に組み込まれた V 字型の柱で下社御柱にはない)に乗せたまま、御柱を傾斜 27 度、距離 80m の木落とし坂から落とす。祭りの中でもっとも危険な地点の一つであり、過去に幾人もの負傷者を出してきた。下社木落としは距離が長い

のに対して上社木落としは、距離が短い「めどてこ」に氏子が乗っているため御柱が横倒しになるなどすると非常に危険である。会場は観衆によって埋め尽くされる。木落としは場所が広く、見せ場でもあるために曳行用の片側 7~8 人乗りの「めどてこ」ではなく 10~12 人ほど乗れる「大きなめどてこ」に付け替える地区もある。しかしその巨大さ故に衝撃で折れるなどの事故も発生する。

御柱道は、坂を下った所が J R 中央本線なので、ガード下を「めどてこ」を外して通す。その後の道は、よくわからなかった。高速道路下を通過し「川越し」の位置は、わかっていたので国道 20 号線と県道 16 号線との交点である中河原交差点に出



て、県道 16 号線を諏訪方面に走り、宮川の手前の「川越しの地展望台」をみながら土手道に入り、「川越し」の場所に行きました。安国寺橋まで土手を進み、対岸の「御柱休めの御柱屋敷」(屋敷はなく御柱置き場)まで行き、ここに車を止めて土手に登った。「山出し」は「川越し」をし、御柱休めに置いて終了する。又、御柱道も「山出し」の曳行道路をさしている。別に期間に行われる「里曳き」はここから前宮まで 1.3km、本宮まで 2.5km を曳行する。今日はこ



こから諏訪インターまで行き高速に乗り帰宅した。

2022.1.11 諏訪インターで降り、諏訪インターを出て右折し国道 20 号バイパスで茅野駅を目指して進む、新井交差点（国道 152 号）左折し、あけぼの隧道から国道 20 号（茅野駅付近を通る）には出られないので、隧道手前のあけぼの隧道交差点を右折し、横内下河原交差点を左折し、ようやく国道 20 号線の横内交差点に着いた。今回は県道 197 号線（弘沢茅野線）を走りに来たので、国道 20 号線を諏訪方面に戻り、国道 20 号線と県道 197 号線の交点である上原交差点（197 号線始点）につき、県道 197 号線を走り始めた。国道 20 号線の旧国道のようで、甲州街道でもある路線は、茅野市街を通り、茅野町交差点から上川を渡り、昭和 30 年まで宮川村の宮川地区に入る。左手に味噌倉があり、駐車場も道沿いにあった。宮川板室地区を通り、宮川板室交差点を左折する（旧国道 20 号線は直進する）、昔国道 20 号から原村方面に向かった道の記憶がある。

宮川板室交差点から川沿いをしばらく走ると高速道路が見え、甲州街道は川沿いに、県道 197 号線は、川から外れ高速道路の下をくぐり、すぐに原村に入る。耕作地が現れ、集落として柏木地区

県道 196 号線と 197 号線交点・霧ヶ峰（弘沢交差点）



を通過し、又耕作地が現れ、さらに次の集落が原村の中心となる所となる。県道 196 号線と弘沢交差点で交わり、中心地を抜けしばらく行くと県道 17 号線との交点でもあり、県道 197 号線の終点でもある分杭交差点に到達した（県道 197 号線走破）。

県道 17 号線を茅野市方面に走ると、県道 196 号線との交点である八ツ子交差点に着いた。県道 196 号線は、ここから茅野市方面には、県道 17 号線と柳沢交差点まで重複して走り、御柱道を下り、御柱道と県道 196 号線分岐点から神ノ原交差点（県道 196 号線の始点）まで、2022.2.8 諏訪南インターから県道 192 号線で奥蓼科温泉郷の「渋の湯」に行く途中で、ここを通った。人家が有、ところどころ耕作地が残る道であった。

2022.1.11 八ツ子交差点から残りの 196 号線（神ノ原青柳停車場線）を走る。まずは先ほど通った弘沢交差点から原村コープに入り休憩。弘沢交差点から上室内交差点（県道 425 号線交点）を右折し、耕作地と集落がある（集落は室内と菖蒲沢）ところを徐々に下って行き、高速道路下を通り、500m 程行った所で、昭和 30 年まで金沢村の金沢地区（茅野市）に入り、少し行くと矢ノ口交差点で国道 20 号と交わる。県道 196 号線は、国道 20 号線と甲州街道と重複しており、途中から甲州街道が分かれ、青柳駅近くで国道 20 号線と別れ、青柳駅まで向かう（県道 196 号線走破）。

2021.2.6 諏訪大社・茅野市付近を散策し、茅野駅をスタートし、県道 192 号線を蓼科湖方面に進み、栗沢橋交差点を右折し、県道 188 号線（上槻木矢ヶ崎線）に入り、橋を渡り昭和 30 年まで玉川村（現茅野市）だったところから県道 188 号線走破を目指した。緩やかな登りの 2 車線道路を進んで行くと、住宅の間に耕作地が時々ある状態から、徐々に耕作地が多くなり、県道 196 号線の始点である神の原交差点を過ぎ、県道 17 号線との交点である大泉山交差点では、ほとんどが耕作地になっていた。

大泉山交差点から、昭和 30 年まで泉野村（現茅野市）だったところに入り、槻木地区の集落を通り、鹿島リゾートに入る道まで行き、鹿島リゾートに入り、なにもせず引き返して来ました。この先「鉢巻道路」が八ヶ岳山腹を縫うように走っていて、原村少し手前から県道 484 号線につながって鉢巻道路は、県道 484 号線終点まで伸びている（県道 188 号線走破）。この日は尖石考古館方面に行き、県道 191 号線を通り国道 20 号に出て帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.1.21

伊那部宿・宮田宿の三州街道（伊那街道）

澤田 繁 著

(長野県道 146 号走破) (長野県道 221 号線走破)

2025.1.21 国道 19 号線で奈良井宿を通り権兵衛峠（国道 361 号）を越え伊那に向かいました。与地交差点を左折し県道 203 号（第 7 集 NO.46）に入り、南アルプスの仙丈ヶ岳が良く見える所（右図・標高 930m）で車を止め写真を撮りました。形の良くわかる鋸岳から甲斐駒ヶ岳、おおきな仙丈ヶ岳を正面にし、日本で二番目に高い北岳、長野県と山梨県と静岡県との県境から 800m 東にある間ノ岳が確認出来た。ここから見晴らしファームに行き、イチゴ等を買って伊那市街に向かい降りて行き、伊那駅前へ戻りました。



伊那駅前交差点から県道 146 号線（南箕輪沢渡線）は、南北に商店街があるが、かつてはメインの商店街であったのだが結構シャッター街にもなって来ている。国道 153 号線は、かなり前から天竜川沿いに路線変更されていたし、さらに伊那バイパスとして天竜川の川向こうに出来つつある（開通した部分にはショッピングがオープンしている）。旧国道である県道 146 号線は、三州街道（伊那街道）でもあり、塩尻宿を起点に小野宿（国道 153 号線沿い）・宮木宿（辰野町国道 153 号より少し東に外れる）・松島宿（国道 153 号線沿い）・伊那部宿ときて、次の宮田宿へとつなぐ。2021.10.5 に伊那市駅前交差点から神子柴交差点までと、2021.5.24 に伊那市駅前交差点から沢渡交差点は、走っていたので宮田宿に足を延ばしました。交差点から 700m 程いくと河岸段丘が迫って来て、上に春日城跡（春日公園）あり、近くに伊那部宿があったようだ。三州街道（県道 146 号線）は河岸段丘沿いがあり、下島駅横で踏切を渡り、かんてんばばの工場が道沿いにある沢渡交差点で国道 153 号線に出た。かんてんばばのガーデン等は、西に真っすぐ登っていった所にある（県道 146 号線走破）。



2025.1.21 沢渡交差点から国道 153 号線を走って、沢渡南交差点に、ここで迷って宮田宿に行くには、2022.3.15 に走った県道 221 号線を通るか、このまま国道で行くのか？、結局国道を選択し、県道 221 号線を想像しながら走りました。県道 221 号線（宮田沢渡線）は、三州街道とほぼ同じで、天竜川の河岸段丘の真下から藤沢川を越えるあたりから段丘の台地に登る、街道沿いは住宅が多くある道がつづく、国道も河岸段丘を登り宮田村の市街地に入った。宮田村役場前交差点を右折して 200m 行くと、北町交差点で県道 221 号線と交わった。

北町交差点を左折し県道 221 号線を少し行くと宿場の形跡が少し感じられる所（宮田宿）に着いた。宮田宿は、古代の官道である東山道の宮田駅が設置された場所からはじまり江戸時代の三州街道の宿場町として栄えた。道が広いのは、大火のあと延焼防止対策とし宮田宿内の街道の幅は約 10m 程に広げられ中央に水路を設けたためのもので今では水路はない。宮田宿を通り駒ヶ原交差点まで走り、右折して山の方に向かいしました（県道 221 号線走破）。

せっかくなので本陣が移設されているようなので足を延ばしました。4km 程緩やかに登っていった宮田村文化会館の所に「宮田宿本陣旧新井家住宅」がありましたが休館でした。少し下った所で北岳を撮って帰



《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.1.26
狭い山道がつづく岩本里穂刈線(県道319号線)
(長野県道319号走破)

澤田 繁 著

2020.6.9 県道を走り始めた時期に、この県道を走り、県道を走る覚悟が出来た県道になる。国道19号線の穂刈橋北の交差点が始点となっていて、ここが信州新町里穂刈地区になる。犀川に沿って少し行くと、昭和29年まで津和村(山上条・越道・山穂刈)に入り、川沿いから山道に入る。橋の所が標高450mで登りの山道は、狭い(一車線)・登り・暗い・曲がりの多い・すれ違い場所少ない・ガードレールが無い場所が多い・山腹で片側谷の全ての悪条件を満たしていました。標高820mの峠であり、津和村から昭和30年まで信級村の境でもある所までの途中、上から車が来たので、50m程ガードレールのない片側谷の山腹の道をバックをして、ようやくすれ違う事が出来た。このことが県道を走る覚悟になっ



た。

旧信級村に入り、尾根道を走り、登り降りしながら最後の山(標高720m)を越えると、下り道になり、途中に旧信級小学校跡が見え、更に下って県道393号線(この沿線上には集落がある)との交点(標高600m)に到達した(県道319号走破)。このあと393号線を北にはしり、大町(国道147号)に出て帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.1.28

県道 500 号線 2024 年 3 月笠倉壁田橋完成で開通

澤田 繁 著

(長野県道 355 号走破) (長野県道 434 号走破) (長野県道 500 号走破)

2025.1.28 中野インターから県道 505 号線に入り、千曲川に架かる上今井橋を渡り上今井地区(旧豊井村)に入り、下流 5~6km 先に出来た笠倉壁田橋を目指しました。上今井交差点で国道 117 号線に出て北上し替佐交差点を右折し、替佐駅まで行きました。この間が 2023 年に路線が短縮された県道 416 号線(第 14 集 NO.93)になる。替佐駅を出て、国道 117 号線に戻り 400m 北上すると、豊田支所前交差点があり、そこを右折した。県道 500 号線(豊田中野線)の始まりとなる。ここから 1.5km 程は、旧国道 117 号線を整備した道であり、その先は、酷道のままの道となっているが、まだ走った事がない。県道 500 号は旧国道から右折して 2km 程が新しい道となる。2022.8.23 に橋を挟んで両方から橋まで走ったが、その時には完成予定が 2023 年 10 月であった。完成は少し遅れて 2024.3.25 であったが、すぐには行けずに今日になってしまった。ワクワクしながら手前で写真を撮り、橋を渡りきった。県道 500 号線は、新幹線の下をくぐり、県道 500 号線の終点であり壁田交差点で国道 292 号線と交わった(県道 500 号走破)。昭和 31 年まで豊井村であった豊津地区(替佐駅を含む)と昭和 29 年まで長丘村(現中野市)であった壁田地区までを走る県道となった。



県道 500 号線は、壁田交差点からは県道 355 号線(壁田松崎線)につながっておりそのまま進んだ。この路線を走るのは 2 回目になる、昭和 29 年まで平岡村(間長瀬・笠原・金井・新井・若宮・竹原)であった平



坦な地区をほとんど走る。ぶどうとりんご栽培がほとんどの地域であった。終点の国道 403 号線との交点の少し手前に、長野電鉄長野線（長野―湯田中）の駅「信濃竹原」があり、無人駅らしく写真をホームから撮ってしまいました。終点の交差点は信号がない四差路で、直進すると県道 356 号線につながっていた（県道 355 号線走破）。

この日は、左折し渋温泉方面（第 20 集 NO.134 予定）を散策し、再び 355 号線の終点の交差点に戻って来ました。

国道 403 号線を奥志賀方面に進み、夜間瀬駅が左に見える踏切を渡り、一つ目の信号のある交差点を左折し、県道 434 号線（夜間瀬赤岩線）に入った。この路線は 2022.9.27 に完走した路線なので、途中まで走り高社大橋を渡り中野市街に行き中野インターから帰宅した。

県道 434 号線は、山之内町夜間瀬（昭和 30 年まで夜間瀬村）から昭和 29 年まで科野村（現中野市・深沢・越・赤岩）だった所を走る。夜間瀬川右岸の丘陵地を走っており、高社山^{こうしゃさん}に向かって切り開かれている場所（写真：上の白い部分）であった。昔は「ホップ」も盛んに栽培していたようだが、現在は「ぶどうと



りんご」の栽培がほとんどのようだ。切り開かれた上に「よませ温泉スキー場」があり、学生の時滑りに行ったスキー場の一つである。又 40 年くらい前にテニス全国大会の軽井沢以外の開催を模索していた時期に、ここに多くのテニスコートがあり視察に来た事があった。グーグルの上空写真を見る限り、現在も存在は確認出来た。コー



ト数は 28 面（写真には 45 面写っている）以上必要なのは OK でしたが、なかなか 500 人の宿泊とレセプションが課題でした。中野市街地が良く見える場所に来たので、車を止めて景色を見ながら写真を撮った。深沢地区に入り、越地区に入る前で、今回は左折して帰宅したが、2022.9.27 は更に県道 434 号線を走り、越地区から赤岩地区に入り、街道筋（谷街道）を走っていくと、途中街道とは分かれ、狭い道を下る道（これが結局県道 434 号線でした）を、県道かな？と疑いながら通り、終点である赤岩交差点に到着した（県道 434 号線走破）。

